

令和7年度
事業計画書



社会福祉法人 神奈川やすらぎ会

【 目 次 】

令和7年度 運営方針	・・・・・	2
セクション (拠点順)		
高齢者総合福祉サービスセンター森の里		
特別養護老人ホーム 森の里	・・・・・	3
通所介護・通常規模型 森の里	・・・・・	4
管理・営繕 部門	・・・・・	5
居宅介護支援 森の里	・・・・・	6
第二森の里		
特別養護老人ホーム 第二森の里	・・・・・	7, 8
厨房 部門	・・・・・	9, 10
総務 部門	・・・・・	11, 12
小鮎・緑ヶ丘地域包括支援センター	・・・・・	13, 14
みらくる保育園	・・・・・	15, 16
委員会		
研修委員会 (森の里・居宅・第二森の里・地域包括合同)	・・・・・	17, 18
防災委員会 (森の里)	・・・・・	19
防災委員会 (第二森の里)	・・・・・	20
衛生対策委員会 (森の里)	・・・・・	21
衛生対策委員会 (第二森の里)	・・・・・	22
人権擁護委員会 (森の里) (第二森の里)	・・・・・	23
組 織 図		

気づき・感じる

昨年度の運営方針も「気づき・感じる」でした。一昨年度は「考動」、その前年は「あるべき姿の追求」をテーマに掲げ、運営を行って参りました。

この3年間のテーマを振り返り現場では運営をされていたでしょうか？「あるべき姿の追求」をするときに先ずは「気づき・感じる」こと、そして「考動」していくかなければならぬと思います。

マネジメントの品質を高めようという概念である Plan (計画)、Do (実行)、Check (測定・評価)、Action (対策・改善) の仮説・検証型プロセスを循環させ、いわゆる PDCA サイクルを回すためには、その前に気づく・感じることが必要です。

社会的に必要とされる組織は、社会的存在意義が絶対的に必要です。私たちは社会に何を求めるか、存在しているのでしょうか。

以前から言っているように、外部環境の変化に対応し続ける組織であり続けることが重要です。

昨日と同じ今日を過ごしても異なる明日を求めるとは、「愚か者の結論」と言われています。

あるべき姿や求められている姿は、とても速いスピードで変化しています。それに気づく・感じる感性を養い、継続的な強い組織を構築していきましょう。

そのためには、スタッフ一人ひとりの人間力を強化することが求められます。人間力の強化には、一人ひとりの人生が豊かであることが必要です。

令和7年度も福利厚生と研修に力を入れていきます。それに加えて、公休有給100%の消化と残業なしを継続していきたいと思います。

その時間を有効活用し、自分自身の時間を使って読書や趣味、副業に取り組み、人間力を強化してください。

介護や保育には正解がありません。お互いの持つ人間力を活かしながら、より良い答えを探し続けるためには、チームがお互いを尊重し、「自分の意見（考え方）を述べる・他人の意見（考え方）を聞く」ことが重要です。

そのためには、常日頃からお互いに良好な人間関係を築いていく必要があります。令和7年度は、一人ひとりがアンテナを高く保ち、「気づき・感じる」ことでより良い組織を作っていきましょう。

今年のテーマはあえて昨年度と同じ「気づき・感じる」とします。

特別養護老人ホーム 森の里

1、年度目標

- ①ご利用者の日常生活の充実化を図り、また生活課題と心身状況を把握し、日々の生活に喜びを増やす事を目指す。
- ②内外研修に積極的に参加し、その学びを職員全体で共有し、サービスの向上を目指す。

2、概要

- ・職員ひとり一人がご利用者の心身状況に気づき、理解し、その人らしい日常生活が送れるよう努める。
- ・研修での学びを共有する機会を設け、職員全体で考え、行動する力を身に付け自己啓発に努める。

【相談員】

- ・その人らしく生活していただけるように、ご利用者の自己実現のための支援、ご家族の希望・要望に対して相談等を行う。

【医務】

- ・ご利用者の思いを汲み取り現在のADL維持・向上を普段の生活から援助できる方法に取り組み、多種職と協働しながら満足度の高い生活の場の提供に努める。
- ・嘱託医と連携し施設での感染症予防・拡大防止のための発信・研修に努め、理解・実施できるように、また衛生環境を整える。
- ・褥瘡予防・皮膚トラブル予防に向けて取り組み、ケアの質の向上を図る。
- ・現場で必要な医療の基本知識を再確認し、早期発見に努める。

【介護支援専門員】

- ・ご利用者の生活の質が維持向上するための課題や問題点に気づき感じることで、ご利用者の自立支援に向けた適切なケアマネジメントを実践する。

【短期入所】

- ・ご利用者のファースト・マインドになるための努力を続けていく。
- ・個人に存在する様々な個性を受け止め、滞在中の安全対策に努める。

3、年間行事計画

4月	お花見	1月	祝い膳
9月	敬老祭ふれあいまつり	2月	節分

通所介護・通常規模型 森の里

1、年度目標

在宅生活支援に結び付くサービスを提供するとともに、多様に変化していく介護ニーズに柔軟に対応できるようITやIOTを活用しながらサービス向上に努める。
新規利用者獲得に努め、稼働率100%を目指す。

2、概要

- ① 個別機能訓練、レクリエーション、季節ごとの行事等の活動内容の充実を図り、個々のQOL向上につなげるサービス提供ができるよう努める。
- ② ITやIOTを活用し、業務改善を行いながら、提供するサービスの質を高めるよう努める。
- ③ ご家族やケアマネジャー等との交流を増やしていき、求められるサービスを明確にしながらサービス内容の見直しと充実を図り支援内容の質を高める。
- ④ 外部との交流以外にもSNS等を上手く活用し、新たなターゲットへアプローチしながら、新規契約に繋がるように情報発信を積極的に行う。
- ⑤ 感染症予防を徹底し、ご利用者が楽しみを持ち安心して安全に過ごせるよう努める。

3、年間行事計画

4月	お花見	10月	
5月		11月	
6月		12月	クリスマス会・忘年会
7月	七夕飾り	1月	新年会
8月	夏祭り	2月	節分
9月		3月	ひな祭り

4、研修計画

研修委員会に基づき施設内研修
外部研修（機能訓練、レクリエーション、認知症等）

5、その他

個別でのお誕生日会
書道クラブ

1、年度目標

昼間の時間帯の人数が少ない中での自分の役割を把握し、無駄な時間を極力減らす行動を心掛ける。

2、概要

① 車両管理と運用・送迎部門

- 1) 車両の整備・点検・清掃と、ご利用者にやさしい運転で事故ゼロの達成や快適な送迎が出来るように努める。
- 2) ご利用者や、ご家族からの意見等の情報共有に努める。
- 3) 新規のご利用者の自宅近隣の状況等を事前に確認し、効率良い送迎に努める。
- 4) ご利用者やご家族への言葉使いや挨拶・態度等に気をつけ、明るく接し、より良い送迎に努める。
- 5) 車椅子使用時における装着の仕方等を再確認し、職員全員で統一し、安全に努める。
- 6) 出勤時、退勤時における全員のアルコールチェッカーによる確認に努める。

② 設備・営繕部門

- 1) 森の里・第二森の里・みらくる保育園・グリーンヒルズの環境整備・建物の定期的なメンテナンスの実施。
- 2) 備品の点検や車椅子等の器具のメンテナンスの実施。
- 3) 建物や器具等のメンテナンスの仕方や知識の共有・伝達。
- 4) 建物の老朽箇所や破損箇所の修繕・リフォーム等の実施。

3、研修計画

- ・PCやスマートフォンで参加する研修が主となって行く中、観られない職員もいるので、時間を作り数人で集まるなどして、全ての研修に参加出来るようにする。

1、年度目標

医療や介護を必要とする高齢者や障害者が、住み慣れた地域で自分らしく、生き生きと暮らしていける仕組み「地域包括支援システム」の一員として、多様なニーズに対応できるよう、地域における医療、行政、介護の関係機関と連携していく。
事業所内においても業務を遂行しながら人間力を強化していく。

2、概要

- ① 在宅での生活を支える為、ご利用者の入退院における医療と介護の連携や必要に応じて他機関等と連携し、生活全体のマネジメントを行い本人の思いに気づき・感じ、寄り添う支援を行う。感染対策、体調管理は、引き続きしていく。
- ② 介護保険制度改正に伴う変更等を理解し、中重度や支援困難ケースは積極的に対応し質の高いケアマネジメントを行う。また、他居宅介護支援事業所との事例検討を行うなど、地域のケアマネジメント機能を向上させる取り組みを行う。
- ③ 各種研修会等に参加して知識や技術のスキルアップを図り、ケアプランが効果的に機能出来るようにする。オンラインでの会議や研修も積極的に参加し、事業所内でも情報共有や支援に関する相談を行い、資質向上に努める。
- ④ 介護ソフトの機能を理解し、事務処理時間の短縮、ペーパーレスを進め効率化を図る。

3、年間行事計画

- ・年5回 事例検討会、他居宅事業所との共同事例検討会
- ・年に1回（9月）新規ご利用者へアンケート
- ・週1回ケース会議 月1回ケアマネ会議 朝のミーティング

4、研修計画

- ・施設内研修（事故防止・ヒヤリハット、ターミナル、人権擁護、食中毒、感染症）
- ・ケアマネ部会研修 　・厚木医療福祉連絡会 　・厚愛地区高齢協研修
- ・保健福祉事務所研修 　・県社会福祉協議会研修 　・県介護支援専門員協会研修

5、その他

1、年度目標

- ・気づきを大切にご利用者の想いを職員一人ひとりが感じ取り情報を共有することでより良いケアを目指す。
- ・看取りではご本人やご家族が望むケアが出来るよう、連携や情報を共有し同じ思いに向かってケアを提供する。
- ・外部研修に積極的に参加し職員の技術向上を目指す。

2、概要

【1階フロア】

- ・ご家族との繋がりを文章や言葉だけでなく記録や映像等様々な方法を職員間で立案しご利用者・ご家族が不安なく安心できるよう努める。
- ・職員全体のスキルアップ研修を行い、介護技術の向上・職員意識の共有を図る。
- ・ご利用者の暮らす生活の場であることを理解し一人ひとりに寄り添うケアを継続し大切な時間を安心して楽しく過ごせるようを目指す。

【2階フロア】

- ・ご利用者、ご家族の要望に合わせた個別ケアを目指す。
- ・職員が意見を出し合い共有することでより良いケアが実践できるように努める。
- ・誕生日に向け、日常からご利用者とコミュニケーションを大切に行い、ご家族にも情報収集を積極的に行い、素敵な思い出作りを目指す。

【3階フロア】

- ・一人ひとりに添った、ケアに努める為に普段からご利用者とのコミュニケーションを大事する事で不安や・思いに気づく職員を目指す。
- ・看取りはご利用者・ご家族の想いに添ったケアを行えるよう、情報の共有を行う。
- ・職員は普段から感染対策に努め、自身の体調管理も徹底する。

【相談員】

- ・入院時、医療機関と定期的に状況確認を行い、ご家族、関係職員と情報の共有を志し退院・退所が円滑に行えるよう努める。
- ・ご利用者やご家族の相談窓口として、迅速に対応し不安や負担の軽減に努める。

【介護支援専門員】

- ・定期的な担当者会議の開催やカンファレンスによって、ご利用者とご家族のニーズや希望を反映したケアプランを作成する。
- ・多職種で連携し、ご利用者がより良い生活を送れるように支援する。

【医務】

- ・感染対策に関する知識を持ち、菌やウイルスを持ち込まない・持ち出さない・拡げないような環境作りを行う。発生時の対応をマニュアルに沿って確実に対応していく。
- ・多職種と協働してリスク管理（転倒予防・褥瘡予防・窒息誤嚥予防）を行うと共に、ご利用者が安心して生活できる環境を提供する。
- ・ご利用者やご家族が望む最期を迎えることができるよう、後悔の無い納得のいく人生を全うできるよう、ご家族も含めて多職種と思いを共有し看取りケアを行う。

【短期入所】

- ・ご利用者のファースト・マインドになるための努力を続けていく。
- ・個人に存在する様々な個性を受け止め、滞在中の安全対策に努める。

【洗濯・清掃】

- ・衣類の紛失や洗濯方法の間違えがないよう確認の徹底をする。
- ・快適な生活の提供、環境整備のメンテナンス補修、点検に努める。

3、年間行事計画 ※随時 保育園とのふれあい、外出フロアでのレクリエーション

4月	お花見	10月	運動会
5月		11月	収穫祭 秋の実りまつり
6月		12月	クリスマス会・忘年会
7月	七夕	1月	祝い膳
8月	夏祭り	2月	節分
9月	敬老祭 ふれあい祭り	3月	ひな祭り・お花見

4、研修計画

外部研修 隨時

内部研修

5、その他

1、年度目標

- ・季節感のある食事を通して四季の移り変わりを感じていただきながら、行事食や食事レクリエーションにより食事を楽しんでいただく。
- ・安全で安心な食事を提供していく。
- ・職員一人ひとり考えを持って自ら行動していく。

2、概要

【調理部門】

- ・旬の食材を使用したバランスのよい「美味しい」と感じて頂ける食事を提供する。
- ・行事食など調理師が企画・立案に参加し、味のバリエーションや見た目にも喜んでいただける食事を提供する。
- ・嚙下調整食分類 2021に基づいた食事形態に調整する。
- ・衛生対策を徹底し、発生源とならないよう食中毒予防に努める。
- ・月1回以上の厨房会議を開催、積極的な意見交換により情報や認識を全厨房職員で共有していく。

【栄養管理部門】

- ・「食」を楽しみ健康に過ごしていただくため、ご利用者、ご家族、他職種とチームとなって栄養計画を作成し実施していく。
- ・研修などに参加し幅広い知識を得ることで、一人一人に適した食事形態・食事内容の調整を行う。
- ・栄養計画内容を管理栄養士全員で共有、意見、情報を出し合い、ご利用者にとって最も良い栄養ケアを目指す。

【保育園】

- ・食物アレルギー対策を徹底し、食物アレルギーを持つ園児も食事を楽しめる献立を作成する。
- ・リクエストメニューの回数を増やし、充実させる。
- ・食事レクに参加し保育士、園児と交流を深める。
- ・保育園の食事会議に参加し保育士と連携を取り、情報を共有し、献立に反映させていく。
- ・食育活動を通し、食に関する知識や生産者や調理者への感謝の気持ちを持つことの大切さを伝えていく。

3、年間行事計画

4月	お花見	10月	食育活動（保）
5月	食育活動（保）	11月	収穫祭 秋の実りまつり
6月		12月	クリスマス会、年越し
7月	七夕	1月	祝い膳
8月	夏祭り	2月	節分
9月	敬老祭 ふれあい祭り	3月	ひなまつり、リクエスト献立（保）

※上記他、誕生日食（特養）遠足弁当（保育園、希望者）実施

4、研修計画

- ・嚥下食、栄養管理
- ・食中毒、感染症
- ・厚木市給食従事者講習会

1、年度目標

法人全体の状況を把握し、各事業の計画的な運用を管理、サポートする。

労務、財務に関する情報を収集・分析し、正確かつ迅速に発信する。

法人全体で省エネルギーを推進するための環境を整備する。

2、概要

【総務事務全般】

- (1) 適正な会計処理を行い、月次毎に収支の流れを正確に把握する。
- (2) 光熱水費の状況を把握し、グラフ化するとともに法人全体で省エネルギーを推進できるよう働きかける。
- (3) 資格取得支援、子育て支援等、職員が働きやすい環境を整える。
- (4) 福利厚生の一環として通常の健康診断の他、がん検診等の付加健診の導入を計画する。

【森の里総務事務全般】

- (1) 第二森の里総務とコミュニケーションを強化し、職員が業務に集中できる環境を整える。
 - ① 備品の在庫管理の徹底
 - ② 小口現金の管理
 - ③ 正確な勤怠管理
- (2) ご利用者によりよい生活環境づくりに協力する。
 - ① 書道クラブ、華道クラブで使用する備品の在庫確認及び補充等

【請求事務全般】

- (1) 介護給付費及びご利用者への請求を適切に行う。
- (2) 請求の際に細部まで確認を行うことにより、ミスを無くし適切な請求を行う。
- (3) 返戻などがあった際には原因をしっかりと精査し、対応を行う。
- (4) 請求完了後は会計ソフトへの入力、計算を適切に行う。

【備品購入管理】

- (1) 各セクションと連携し、適切な物品の選択および管理を行う。
- (2) 発注業務、在庫管理業務の効率化およびペーパーレス化を図る。
- (3) 感染症予防対策に係る備品の確認や見直し、補充等を確実に行う。

【助成金担当】

- (1) 令和7年度神奈川県キャリアアップ助成金(正社員化・社会保険適用時処遇改善コース)の支給申請を適切に行う。
- (2) 令和7年度厚木市介護職員等人材育成支援事業補助金の申請を適切に行う。
- (3) 令和7年度成建福祉財団(高齢者福祉施設整備事業)助成金の申請を適切に行う。
- (4) 新規助成金案件の情報を的確に把握し、適宜申請を行う。
- (5) 各種表彰対象者の選定を適切に行う。
- (6) 業務継続計画(B C P)計画書の整備を行い、適切に研修及び訓練の計画を立て実施する。
- (7) ゴミサー(生ごみ処理機)の使用状況を調査し、厚木市環境農政部環境事業課へ報告する。
- (8) 特殊浴槽の自己評価結果(2回目)を公益財団法人 J K Aへ報告する。
- (9) 施設整備支援事業補助金の実施状況報告書を県福祉部高齢福祉課へ提出する。

【人財育成担当】

- (1) 資格取得希望者へ情報提供や研修会等を企画し、資格取得に向けてサポートを行う。
- (2) 各セクションの主任と業務の見直しをするとともに、適正な人員配置を行う。
- (3) 求人媒体だけでなくホームページやS N S等も活用し、求人業務を効率よく行う。
- (4) 学生ボランティアや実習生等を積極的に受け入れるとともに、介護や法人の魅力を発信できるよう努める。

【入退所（居）事務局】

- (1) 入所（居）希望者の正確な人数把握に努める。
- (2) 各種待機者調査報告書作成・提出を迅速かつ正確に行う。

3、年間行事計画

4月	決算資料作成
6月	理事会〔予算・事業報告〕、定期評議員会、職員健康診断(6/19, 6/24)
1月	職員健康診断（夜勤者）、法定調書・給与支払報告書作成・提出
2月	次年度予算資料作成
3月	理事会〔決算・事業計画〕

小鮎・緑ヶ丘地域包括支援センター

1、年度目標

高齢者だけでなく、障がい者や子供も含めた全ての住民を対象とし、誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムにおける地域の中核機関として、地域全体で支える体制を構築し、生活上の困りごとを総合的に支援するよう努めていく。

2、概要

- ① 地域包括支援ネットワークの構築には介護に限らず、地域の様々な社会資源を共有し、連携する事が必要であるため、地域ケア会議や民児協、協議体等を通じ地域住民と交流を深め連携体制の構築に努める。
- ② 総合相談窓口として、相談には迅速に対応し実態把握と専門機関や制度利用に繋ぐ。特に権利擁護・成年後見及び虐待防止は速やかに対応し、切れ目のない支援に努める。
- ③ 認知症及び独居世帯等の生活状況の把握に努める。又、対象者には訪問計画を立て定期訪問や関係機関と連携や見守り体制の構築を行う。
- ④ 個別相談を受ける体制の確保、自立支援型地域ケア会議への参加、各種研修に積極的に参加し、職員の資質向上を図る。

3、年間行事計画

4月	みな来るラジオ体操、包括便り春号発行
5月	どんぐり庵推進会議、みな来るラジオ体操
6月	緑いきいきサロン、ケアマネ交流会、みな来るラジオ体操
7月	みな来るラジオ体操、包括便り夏号発行、レコードブック厚木林運営推進会議キャンタス運営推進会議
8月	みな来るラジオ体操
9月	緑いきいき交流会、オレンジフェスタ どんぐり庵推進会議、みな来るラジオ体操
10月	緑ヶ丘敬老事業、小鮎お楽しみ会、みな来るラジオ体操、包括便り秋号発行、なごみ白山運営推進会議
11月	緑いきいきサロン、緑ヶ丘公民館祭り、みな来るラジオ体操、緑ヶ丘小学校2年生包括見学
12月	みな来るラジオ体操、レコードブック厚木林運営推進会議
1月	緑いきいき交流会、みな来るラジオ体操、包括便り冬号発行
2月	緑いきいきサロン、ケアマネ交流会、キャンタス運営推進会議 みな来るラジオ体操

3月	緑いきいき交流会、どんぐり庵推進会議なごみ白山運営推進会議 小鮎公民館祭り、みな来るラジオ体操
----	--

- ※・第1・3木：第二森の里体操教室 ・第2火：緑ヶ丘介護家族健康相談
家族健康相談 みな来るラジオ体操 みな来るカフェ（随時）
・第2水：緑ヶ丘民児協定例会 第2木：小鮎民児協定例会 ・認知症キャラバン講座
第1第2層協議体 各地域ミニディ（随時）・自立支援型地域ケア会議（随時）

3、研修計画

地域包括担当者会議 市・県地域包括従事者研修

4、所属委員会

厚木市第1層協議体委員・・・岩崎 浩介
厚木市第2層協議体委員・・・神名 貴子 近澤 嘉子
県・市伴奏支援事業委員・・・成田 裕世 中原 亜矢
厚木市認知症地域支援推進員・成田 裕世
厚木市医療福祉連絡会・・・神名 貴子
厚木市高齢者支援検討会議・岩崎 浩介
緑ヶ丘地区地域福祉推進委員・岩崎 浩介
小鮎地区地域福祉推進委員・岩崎 浩介

1、年度目標

- ① 全保育士の保育の質向上を目指すと共に、新規に保育士を採用し、継続して働くことのできる職場づくりに力を入れる。それに伴い、園児入所率を100%にする。
- ② 子ども主体の保育とは何かを職員全体で考え、毎日の保育内容を変化させる。
- ③ 業務改善に力を入れ、事務作業の削減を実現することで保育士の事務作業の時間や子どもたちの情報共有の時間を作り出す。

2、概要

- ① 園内研修を年10回行う事で、非常勤職員も含めて全職員の保育の質の向上を図る。また、他のクラスの保育を見合う等研修の内容を工夫して取り入れる。
- ② 職員採用については、昨年度に引き続き全職員で取り組む。
研修などで子ども主体の保育について勉強するとともに、保育士同士が自分の考えや子どもたちの様子を話し合いながら、子ども一人ひとりの育ちについて全職員が気付き、理解して対応出来るようとする。また、クラス運営の方法を園全体で考え、今までのクラスでの活動だけでなく、縦割り保育などを多く取り入れる事により子ども主体の保育に近づくように努力する。
- ③ 保育士一人ひとりが業務改善を自分の事として捉え、各自がどの様に工夫したら事務時間が確保できるのかを考え、振り返りながら働き甲斐が感じられる様にしていく。

3、年間行事計画

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・始まりの会 ・春の遠足(4.5歳児) ・入園おめでとう会 ・内科健診 	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・内科健診 ・運動会 ・はじめての遠足(3歳児)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの日集会 ・懇談会(年間目標説明会) ・歯科検診 ・親睦遠足(4.5歳児) 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・歩け歩け遠足(3.4.5歳児) ・歯科検診 ・保育参観(0.1.2歳児) ・個人面談(全園児)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・尿検査 ・不審者訓練 	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談(全園児) ・クリスマス集会 ・冬の遠足(3.4.5歳児) ・不審者訓練

7月	<ul style="list-style-type: none"> ・七夕まつり集会 ・プール始め 	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談（全園児） ・交通安全教室(0~4歳児) ・伝承遊び weak
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・夏のおたのしみ会 ・プール納め 	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・豆まき集会 ・体幹運動発表会 ・交通安全教室(5歳児)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・引き渡し訓練 ・不審者訓練 	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ひな祭り集会 ・なかよし week ・お別れ遠足（3.4.5歳児） ・お別れ会 ・卒園式

*誕生会…誕生日に各クラスでお祝いをする。

*毎月実施…身体測定、避難訓練

*3ヶ月に1度実施…不審者訓練

*森の里、第二森の里との交流は随時連絡を取り合って行う。

4、研修計画

・園内研修年10回

・その他園外研修は随時

・年齢別発達	・キャリアアップ(およそ3年以上)	・子どもの発達講座
・怪我予防についての研修	・感染対策	・体幹運動
・保健講座(乳児)	・主体的な保育について	

研修委員会
(森の里/居宅/第二森の里/地域包括合同)

構成員 (森の里) 佐藤健一 岩崎佑里 篠崎あゆみ 門倉千絵 (居宅) 圓福るり子
(第二森の里) 鈴木裕 清水正人 青山周作 福本寿美子 山下彩香

1、年度目標

- ① 「専門性」及び「職業倫理」の向上を目指し専門職としてのスキルアップを目指す。
- ② 業務に必要な、知識・技術等を習得できるよう研修計画体制を整備し研修目的を明確化する。
- ③ 「現場で生きる」研修の実施。
- ④ オンライン研修の浸透化及び実施を目指す。(Band を使用)
- ⑤ 外部研修の実施。
- ⑥ 森の里・第二森の里の研修の情報を共有し、広く知識を身につける。

2、概要

- ① 年間計画作成
- ② 月毎に委員会開催 (合同または各施設)
- ③ 研修時間は内容により設定 (勤務時間内または時間外に行うものとする)
- ④ 森の里と第二森の里での合同研修においては合同にて会議を実施する。
動画による研修は合同研修とする。
各施設での研修は、情報を共有し参加を促していく
- ⑤ 研修不参加者には資料の閲覧行ない研修内容によってはレポート提出を実施。
- ⑥ オンライン研修の実施回数を増やし、各職員へのオンライン研修の浸透化。
- ⑦ 外部研修の実施

3、年間計画 ※外部研修は変動・変更あり

	合同研修	森の里	第二森の里
4月		新任職員研修	新任職員研修
5月	人権擁護(事故防止)		
6月	衛生管理研修(食中毒・感染症)	医務研修	
7月	ハラスマント研修	介護技術(外部講師)	
8月	入浴に関する研修		B C P計画(感染・訓練演習)
9月		*食事介助 (月は暫定)	看取りケア研修
10月		口腔ケア研修	口腔ケア研修
11月	人権擁護(虐待・拘束廃止)	認知症	認知症ケア研修

12月	衛生管理研修(食中毒・感染症)	B C P 計画(感染・訓練演習)	
1月	人権擁護(虐待・拘束廃止)	介護技術(外部講師)	介護技術研修(褥瘡予防)
2月	人権擁護(事故防止)		褥瘡予防研修
3月	次年度委員への引継ぎ	次年度委員への引継ぎ	次年度委員への引継ぎ

4、研修計画

新任研修・医務研修・介護技術・外部研修・研修発表は随時行い、外部講師(呼べる場合)・内部研修共に日程調整は研修日より2ヶ月前から行なう。

オンライン研修可能な場合オンライン研修の浸透化を促す為、オンライン研修を行う。
(Bandを使用)

参加出来る外部研修には、参加者を選出し参加してもらい、レポートの提出をもらう。

(人権擁護委員会:事故防止、虐待・拘束廃止、医務:ターミナルケア、感染症予防)

防災委員会（森の里）

構成員 澤田由里子 鈴木裕一 南敬子 加藤美穂 橋本啓太 斎藤幸志 加藤一江

1、年度目標

- ・防災設備の点検、管理を行うことでご利用者が安心して生活できるための環境整備に取りくんでいく。
- ・気候変動による大雨に対し、防災意識の心構えをすることを共通認識する。
- ・災害や火災に備えたご利用者、職員人命の安全確保、被害の軽減を図ることを目的とした避難訓練を行う。

2、概要

- ・防災用具点検及び建物内外の安全パトロールを行い、安全性の確保や機能の保持など危険箇所等を把握する。
- ・被害を最小限に留める為、ボイラーの消し方や施設内の防災設備の把握を行う。
- ・避難訓練を通して職員全体の防災意識を高めつつ、各セクションが連携を取りなら取り組む。
- ・火災避難訓練は、二方向避難を実施し、避難時は火元から離れることを意識づける。
- ・自然災害B C Pの避難訓練として、非常時の職員の安否確認と出勤可能な職員の把握の為、緊急時連絡網に基づいた電話での連絡の訓練を行う。
- ・大規模避難訓練では、実際の災害に近い状態での避難訓練実施を試みるため、避難訓練の告知において特定の日時を示さず、「今週中」などの告知で実施する。
- ・避難方法のレパートリーを知る為の研修を行う（毛布、おんぶ、担架）。
- ・垂直避難に備え、車椅子の階段移動避難訓練を行う。

3、訓練計画

5月	土砂災害避難訓練	8月	夜間想定火災避難訓練
6月	消火訓練	10月	大規模地震想定避難訓練
7月	防災センターへの新人研修		

4、その他点検・活動

- ・防災設備点検（毎月）
- ・施設内安全確認パトロール（年4回）
- ・備蓄倉庫物品点検・整理交換（3ヶ月毎）
- ・各セクション防災頭巾の虫干し
- ・救急セットの点検
- ・年度初頭時点での職員の緊急連絡網の配布（年一回）
- ・職員人員変更発生時、緊急連絡網の加筆、修正
- ・懐中電灯の点検（毎月）

防災委員会（第二森の里）

構成員 防火管理責任者 西迫哲 (副)星野晃徳 座間大輝 稲本清子 大塚隆司

1、目的

職員の、火災・震災等の災害に対する危機意識を高めるとともに、災害に起因する人的・物的被害を最小限にとどめることを目的とする。

2、計画

- ① 法令に定められた訓練の実施
 - ・大規模地震対策特別措置法に基づく訓練(年に1回、計画・実施)
 - ・火災想定訓練(年に1回、計画・実施)
 - ・消火器使用消火訓練(年に2回、実施)
 - ・風水災害訓練(年1回、実施)
- ② 施設の防災計画の見直し
 - ・防災計画の作成
- ③ 水害想定訓練
 - ・水害対策マニュアルの作成
 - ・避難訓練の実施(年に1回、実施)
- ④ その他
 - ・備蓄物品の整理交換
 - ・神奈川県総合防災センター訪問訓練：年度内5回(奇数月開催、実施予定)

3、年間計画 実施予定

- ・火災を想定した避難訓練(通報訓練・消化訓練)
- ・地震・夜間想定の避難訓練(消化訓練)
- ・防災センター 体験・訓練
- ・水害対策の避難訓練

4、その他

- 緊急連絡網更新実施 ヘルメット・懐中電灯点検実施
- 毎月 防火設備点検
- 備蓄庫点検実施
- 毎月1回 定例会議実施
- 消防計画の訂正・提出(消防署へ)

衛生対策委員会（森の里）

構成委員

西迫哲 小林秀也 白澤亮 門倉千絵 山崎晴香 仲亀和子 阪口百恵 栗澤恵美
橋本啓太 三橋亮太 前野雄也

1、年間目標

- ・感染症や食中毒などの予防、拡大の防止のための対策をする。
- ・感染症 B C P の策定・研修実施・評価。

2、活動計画

- ・3ヶ月に1回以上定例会議を開催し、その結果について、職員に周知徹底を図る。
- ・定期的な感染症対策研修の企画、実施を行う。
- ・新規採用職員への感染症対策研修を行う。
- ・新型コロナウイルス等発生時における業務継続計画（B C P）に沿って実務研修を行う。
- ・施設内環境の点検を行う。
- ・機関からの感染症のおける通達が来た場合、すぐに緊急会議を開く。

4月	施設内環境整備
6月	食中毒・感染症研修 施設内環境整備
12月	ノロウイルス・インフルエンザ予防対策 施設内環境整備
1月	衛生面・消毒方法の徹底 施設内環境整備

研修：衛生管理研修（食中毒・感染症）6月 12月

衛生対策委員会（第二森の里）

構成委員

西迫初美 丹羽涼 古屋明子 川越直美 横山恵美 大瀧亜希奈 白澤亮 橋本啓太
鈴木裕 塩川匠 千葉京子 芦田美幸

1、年度目標

- ・衛生対策の正しい知識の統一を徹底し、感染症の発生時には迅速に冷静な対応ができるよう連携を強化する。

2、活動計画

- ・3ヵ月に1回定例会議を実施し、時期に応じた課題について報告検討する。
- ・職員の衛生環境に対する手技を確認し、適宜見直し清潔な環境をつくる。
- ・入所者の感染対策として、自己免疫力の強化を図るため、精神的にもストレスのない環境作り等、生活面での環境を整えていく。
- ・手洗い・マスク・消毒・換気・検温の徹底を図る。
- ・持ち込みによる感染症の予防に努めるため、職員の体調管理や時期における感染情報の早期周知を徹底し、緊張感をもって取り組む。また、緊急SSや新入所、退院等の際感染症の兆候がないか観察し、必要時抗原検査、一定期間の居室隔離対応を行う。

人権擁護委員会（森の里）

構成員 西迫哲 小林秀也 山崎晴香 仲亀和子 阪口百恵 三橋亮太 門倉千絵
橋本啓太 前野雄也 栗澤恵美 児玉涼輔 新徳一真

1、年度目標

医務や研修委員と連携し、知識や技術を相互に身に付け、職員のスキルアップを図り、ご利用者の生活の向上を目指す。

2、活動計画

- 1、ブルーオーシャンでのヒヤリハットを多く記入することを啓発し職員間で共有し事故再発防止へ活かす
- 2、毎月の事故データを分析し、事故防止に繋げる。
- 3、医務や、研修委員と連携し他セクションとも情報や知識を共有する。
- 4、身体拘束・高齢者虐待・事故防止に関わる研修を企画実施する。
- 5、ブルーオーシャンでの事故報告書記を各自閲覧し、意識付けを行う。

人権擁護委員会（第二森の里）

構成員 西迫初美 丹羽涼 古屋明子 塩川匠 山口亜矢子 原田雄史 橋本圭子

1、年度目標

- 1、ヒヤリハットの原因を分析し職員間で共有をする事で事故を未然に防ぐ
- 2、「個人の尊重」「プライバシー」を守り、かつ安全で快適な生活を贈る様に検討し議論をする。
- 3、医務や研修委員と連携し他職員やセクションと、知識や技術を相互に身に着け、高め合い様々な視点からご利用者の生活の向上を目指す。

2、活動計画

- 1、職員間で事故・ヒヤリハットの要因を共有し速やかに報告できる環境をつくる。
- 2、毎月の事故集計データを各セクションで報告し、事故の再発防止へ活かす。
- 3、ヒヤリハットの記入を啓発する事で職員の意識向上に努める。
- 4、拘束0の継続に向けて第三者の意見も取り入れ状況を把握する。
- 5、ブルーオーシャンシステムを活用し最新情報への更新の徹底と閲覧の意識付けを行う。
- 6、事故防止・拘束廃止・人権擁護に関わる研修の実施。